

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.17〉

〈常盤③ 小学校歌〉

常盤小（沖中直樹校長、44人）は、旧西岐波地区と旧恩田地区の一部が合併した1978年の4月に開校した。校章は、モクレン科のトキワレンゲがモチーフになっている。79年2月に制定した校歌には、校訓「美しく」「たくましく」「かしく」がちりばめられており、美しい心を持ち、古里から愛されるときわっ子を、この歌と共に育成していきたいという思いが込められている。

児童の成長「きのうよりなお」

校歌

一 緑をうつす 常盤湖の  
 ここはみんなの 学ぶところ  
 歌声高く ひびかせて  
 むねふくらませ 進みゆく  
 きのうよりなお 美しく  
 はぐくむすがた 常盤小学校

二 朝日にはえる 山やまの  
 ここはみんなの 実るところ  
 すんだ青空 心はひとつ  
 ひろい校庭 かけまわる  
 きのうよりなお たくましく  
 のびゆくすがた 常盤小学校

三 木ぎにさえずる 鳥たちの  
 ここはみんなの 創るところ  
 心かよわせ はげみあい  
 手をとりあって 考える  
 きのうよりなお かしこく  
 はばたくすがた 常盤小学校



校舎前に設置された校訓碑（常盤小で）

職員の願い、校訓と共に

作詞・作曲は当時の小学校職員。初年度の卒業アルバムには、作曲者に品川隆洋さんの名前が記されていたが、現在は「職員」で統一されている。当時の児童たちにも相談をしていたらしく、歌詞の1番は「緑をうつす常盤湖の」、2番は「朝日にはえる山やまの」、3

番は「木ぎにさえずる鳥」事では2部合唱で斉唱。たちの」と歌い出している。児童は高学年になると、低音、高音の両パートが歌えるように練習を始める。音楽の教員は校歌について、伴奏を含めて子どもたちが歌いやすい歌詞とメロディーだと高く評価。親しみやすさを重視しているのも、制作のすべてに教員が関わっているからこそのいえ

また、「ここはみんなの」の後には、各番で「学ぶところ」「実るところ」「創るところ」と続いているのも印象的だ。6年間、学んでほしいこと、それらを学べる学校をつくってほしいという、当時の教員たちの思いがうかがえる。例年、卒業式などの行

沖中校長は「今の時代に求められる自己表現力を音楽を通して育めたい」と話す。現在、月、水、金曜の授業前に校内放送で校歌を流している。コロナ禍で斉唱する機会が少なくなっているからこそ、この伝統を続け、校歌に親しむ環境を大切にしていきたいと言